

Harmony

ASSOCIATION OF ISHIKAWA ARCHITECT'S
New Communication Magazine, Harmony

2023
11月
[No.21]

2023年度ピックアップ建築特集



金沢美術工芸大学 KANAZAWA COLLEGE OF ART

建築概要

- 所在地 / 金沢市小立野2丁目40番1号
- 用途 / 大学
- 建築主 / 金沢市
- 設計・監理 / SALHAUS・カワグチテイ建築計画
設計共同企業体
- 施工 建築 /
(建築工事その1) 真柄・トークン・兼六・北川・鈴木 JV
(建築工事その2) 城東・ウィルビー・本田 JV
(附属棟工事) 株式会社アシーズ
(藍小屋棟工事) 株式会社ツジヨシ
- 敷地面積 / 47,212.87㎡
- 建築面積 / 18,608.47㎡
- 延床面積 / 37,357.65㎡
- 建蔽率 / 39.41%
- 容積率 / 78.39%
- 構造 / RC造、SRC造、S造
- 階数 / 地上3階 地下1階
- 最高高さ / 14.94m

建築概要・金沢美術工芸大学新キャンパス整備について

金沢市都市政策局金沢美術工芸大学建設事務所

1. 経緯

金沢美術工芸大学は、1946年(昭和21年)に金沢市民の熱意により、現石川県立歴史博物館(出羽町)を校舎とする専門学校として創立され、1955年(昭和30年)には4年制大学となり、1972年(昭和47年)に小立野5丁目にキャンパスが完成、移転しました。

しかし、完成後40年以上経過し、老朽化と耐震性能が不足するなどハード面の課題に加え、芸術分野の多様化や新規分野への対応といった教育研究環境の向上が求められたことから、平成28年度に、「金沢美術工芸大学移転整備基本構想」を策定しました。

その後、平成30年にプロポーザル方式により設計者を選定し、基本・実施設計を経て、令和2年度に工事着手、令和5年2月に工事が完了し、10月より大学として供用を開始しました。

2. 建物概要

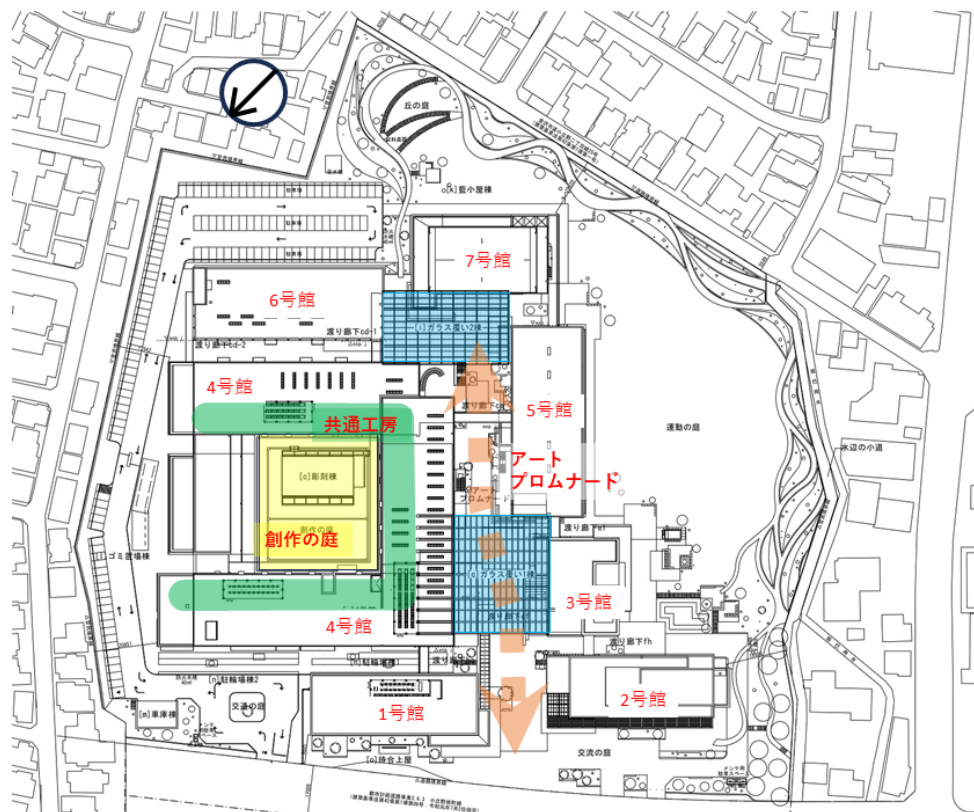
2.1 配置計画

新しいキャンパスは7棟からなり、2階レベルの渡り廊下で接続されています。メインの出入口がある北側の県道に面して、外部から訪れる人が利用する事務局機能や美術館・図書館を配置し、南側の市道に面しては体育館を設置して施設利用者が利用しやすい配置計画となっています。

また、周辺が住宅地であることから、高さが約15mの3階建部分を敷地の中央部に集約し、建物高さによる圧迫感の軽減に配慮するとともに、制作音が発生する工房を中庭に設け、建物配置による騒音対策を行う等、周辺住宅地の住環境に配慮しています。

2.2 アートプロムナード・アートコモンズ

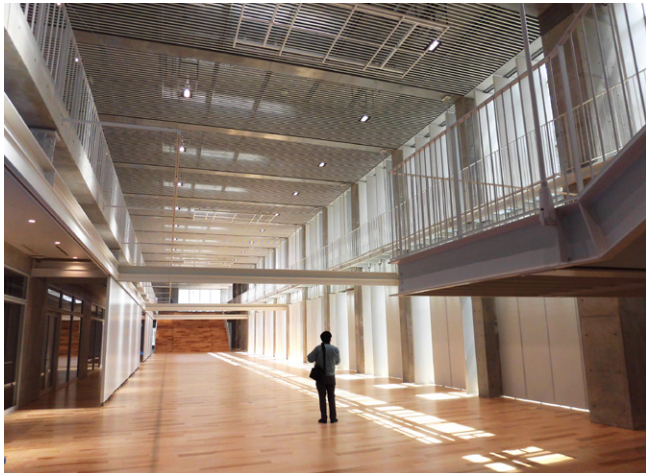
新キャンパスには、学生が制作した作品の展示



配置図

や合評を行うスペースである「アートcommons」をキャンパス内の随所に配置しています。

中でも一番大きいアートcommons Aは、面積500㎡、高さが8mあり、可動間仕切り壁で3つに分割利用ができる他、電動バトンを用いることで、様々な展示に対応できます。



アートcommons

キャンパス内を縦断するメインストリートの「アートプロムナード」に面して、アートcommonsが複数配置されており、学生の活動や作品を気軽に目にすることができる環境となっています。



アートプロムナード

2.3 共通工房・制作室

新キャンパスの特徴として、4号館に設けた「共通工房」があげられます。従来、専攻ごとで保有していた機器を集約化、共用化し、学科・専攻の垣根を越えて全ての学生が利用できる工房としました。また大学院映像コース新設に伴い、従前のキャンパスになかったシアターを整備し、1つしか

なかった撮影スタジオを3つに増やす等メディア芸術分野の機能を強化しました。

共通工房や制作室は、作品の大型化に対応するため、階高は約4.4～6mに設定するとともに、メンテナンス性や可変性の向上を図るため天井仕上げは行わないこととしました。



共通工房(木材加工機械室)

2.4 創作の庭

共通工房をリング上に配置したその中心のスペースが「創作の庭」と呼ばれる、約1,200㎡の外部空間です。屋内では制作不可能な大型作品を制作する時や晴れた日に気分転換に外で制作するなど多様な使用が可能です。また制作で使用する木材や石材などの重い材料を共通工房に搬入するためのスペースにもなります。

また、共通工房と創作の庭の間には奥行約4mの屋根付きバルコニーを設け、雨や雪が降っても外部で制作することができる半屋外空間を整備しました。

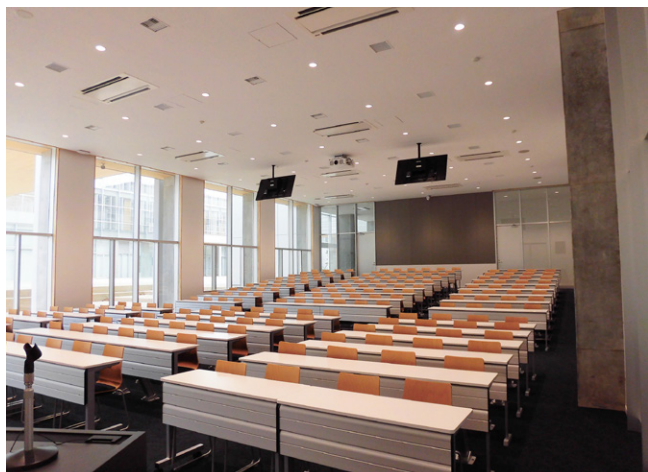


創作の庭

2.5 講義室

講義室は、3号館に集約し、一番大きな101講義室は固定席形式で、200人程度の講演会にも対応可能できるように録画、録音、ネット配信ができる設備を設けています。

また、少人数のグループ講義室から、可動間仕切りでフレキシブルに対応できる講義室など10室を整備し、多様な講義に対応できる環境としました。



101講義室

2.6 美術館・図書館

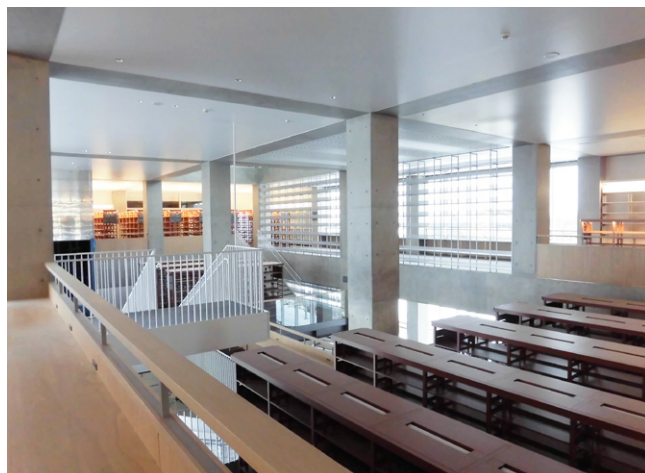
新キャンパスでは、大学で所蔵する絵画や工芸などの美術品の企画展を開催する展示室に加え、全国規模で工芸資料を収集している「平成の百工比照コレクション」を手にとってみる事ができるギャラリーを2号館に整備しました。



美術館(平成の百工比照コレクション)

また、美術本を中心に約12万冊を所蔵する図書館を美術館と一体的に整備し、1階にブラウジ

ングと雑誌、2階を開架図書、3階は閉架図書(集密書架形式)とし、従前のキャンパスの約1.5倍の棚数を確保しました。



図書館

2.7 体育館

従前のキャンパスでは、体育の授業を行う体育館と入学式や卒業式を行う美大ホールを保有していましたが、いずれの施設も稼働率が低いことから、効率的な施設運用を行うため、新キャンパスの7号館では、体育館にロールバックチェアと可動ステージを整備し、多目的ホール化を図りました。ロールバックチェアは264席を有し、可動椅子と併用することで、美大ホールと同規模(約500人)の式典を開催することができます。



体育館

2.8 ガラス覆い

アートプロムナードには、2つのガラス覆いを設置しており、雨や雪の中でも屋外での作業や集会などを行うことができます。

ガラス覆い1は、3号館、4号館、5号館の上部にまたがる形とし、最大スパン31.2mの柱のない大空間を形成しています。

ガラス覆い2は、4、5、6、7号館に囲われたスペースに、独立した棟として建てられています。



ガラス覆い1



ガラス覆い2

また、ガラス覆いに隣接するアート commons は、外部引き戸を開放することで、一体的に使用することができます。

3. 構造計画

建物の構造は、将来の教育環境の変化に対応できるように鉄筋コンクリート造のラーメン構造を基本とし、耐震壁を最小限とする計画としました。また、作品制作に支障が出ないように柱を少なくするためポストテンション方式のPC梁を採用しました。

施工の面から現場での工期短縮を図るため、建物形状が整形な5号館と6号館はPCa造を採用しました。

大スパンを形成しているガラス覆い1では、張弦梁架構を採用し、屋根架構の支持は4号館側を固定端、3、5号館側を東西方向のローラー支持としています。



PCa柱建方状況

4. 設備計画

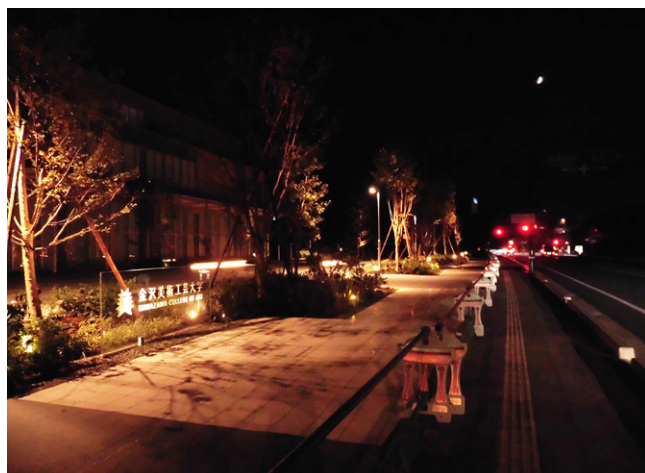
4.1 設備計画

新キャンパスでは、設備機器並びに配管・配線の集約化を可能な限り行い、景観並びに維持管理に配慮した計画としています。

4.2 照明設備

全室500lxを確保しながら、作品を制作、鑑賞する部屋においては、色の再現率を確保する点から、Ra90以上の高演色性照明を使用しています。

また、省エネルギーの観点から廊下並びに非居室については、人感センサーを設置しています。



夜間の外構照明

4.3 空調設備

体育館や美術館・図書館部分などの吹抜け空間における空調は床下空調を採用し、体育館のアリーナが大空間であることから、下方への攪拌装置を併せて設置しています。

また、体育館においては、空調負荷の低減を図るため、給気方式において地中熱を生かしたシステムを導入しています。

4.4 給排水設備

作品の制作において、絵具や多様な薬品を使用することから、特殊排水設備を導入し、有害成分の分離を行ってから、一般排水として排出します。

4.5 昇降機設備

近年、学生が制作する作品が大型化しているため、その運搬で使用する荷物用及び人荷用の昇降機を計3台配置するとともに、バリアフリー対応の乗用を2台配置しています。

5. 外構計画

この新キャンパスの大きな特徴として、門や塀を設けず、自由にキャンパスに出入りできることがあげられます。

また、敷地西側には運動場を兼ねた芝生広場や遊歩道を整備し、市民が気軽に憩えるスペースを配置する一方で、敷地東側に駐車場を集約することにより、歩車分離を行い、来訪者がキャンパス内を安全に歩ける環境とすることで、開かれたキャンパスを実現しています。



敷地西側の芝生広場

周辺が住宅地ということもあり、安全な歩行空間を確保する点から、新しく整備された県道沿いと南側の市道沿いの敷地内に歩行者空間を整備するとともに、東側の住宅地側には幅員約5mの緑地帯を整備し、良好な住環境の形成に寄与しています。

また、2号館前に地域との交流スペースとして様々なイベント開催が可能な広場を設け、その地下には、雨水貯留槽を設けており、近年増加しているゲリラ豪雨対策を実施しています。



2号館前広場(地下に雨水貯留槽を整備)

6. おわりに

新キャンパス整備にあたり、設計者や施工業者、大学関係者、地元の皆様のご協力で、無事に完成を迎えることができました。10月より大学としての供用が開始され、様々な分野で活躍される人材を育成する新たな知と創造の拠点になるとともに、地域の人に愛されるキャンパスになることを願っております。



梶谷建設建築設計事務所

開設者	梶谷 寛	電話番号	0761-47-3311
管理建築士	堀 耕太郎	FAX	0761-47-3314
住 所	923-0824 小松市軽海町ツ 82-1	URL	https://www.kajic.co.jp/

JINEN 一級建築士設計事務所

開設者 (管理建築士)	徳丸 裕規	電話番号	080-3816-4778
住 所	921-8824 野々市市新庄 6-812	URL	https://jinen-tokyo.com/

(株) アバプランニング

開設者 (管理建築士)	高島 修	電話番号	076-248-2836
住 所	921-8816 野々市市若松町 7-39-1	FAX	076-209-0307

アルシェ建築士事務所

開設者 (管理建築士)	奥田 孝行	電話番号	076-220-7493
住 所	921-8024 金沢市白菊町 21-12	FAX	076-220-7427
		URL	https://arche-kanazawa.co.jp/

(株) 高田組一級建築士事務所

開設者	霞流 吉広	電話番号	076-263-6315
管理建築士	濱田 和弘	FAX	076-263-6318
住 所	920-0043 金沢市長田 2-4-8	URL	https://tk-g.co.jp/



文化シャッターサービス株式会社西部メンテナンス支店

代表者	支店長 池田 尚樹	URL	https://bunka-shutter-service.co.jp/
担当者	菱村 篤	業務内容	シャッター・ドアの修理、取替、点検、防火設備検査
住 所	920-0370 金沢市上安原 1-199-3	アピールポイント	シャッターの修理・点検・防火設備検査 お任せください！
電話番号	076-214-3060		
FAX	076-259-6720		

株式会社建築構造センター

代表者	代表取締役社長 田野邊治仁	業務内容	1 構造計算適合判定 2 建築物エネルギー消費性能適合判定 3 耐震診断評価
担当者	長野事務所 所長 佐原 成人	アピールポイント	建築確認部門を持たないという「専門性」と「公平性」。 事前相談から判定通知書の交付までトータルで「信頼・充実・迅速」な適合判定を行います。
住 所	380-0836 長野市南県町 1082 番地 ND 南県町ビル 5 階		
電話番号	026-217-2311		
FAX	026-217-7041		
URL	http://www.kozocenter.co.jp		

(株) システムハウスアールアンドシー北陸営業所

代表者	所長 中川 正夫	電話番号	076-252-7280
住 所	920-0806 金沢市神宮寺 3-1-20 コマツ石川 (株) 本社ビル 2F	FAX	076-252-7281
		URL	https://www.sh-rc.co.jp/